

IMF、アジアが世界経済の回復を牽引と指摘



日本の買い物風景：IMFはアジアの著名な経済専門家からなる地域諮問グループを設立する。
(Gideon Mendel/CORBIS)

IMF サーベイ・オンライン

2009年10月4日

- アジアの急速な成長が世界経済の回復を牽引
- 景気刺激策は回復基調が定着するまで継続すべき
- IMF、同地域へのコミットメントを強調

国際通貨基金（IMF）高官はアジア経済に関し、他の地域に先駆け世界的景気後退局面から力強い回復を見せていると述べた。

同地域の経済成長率は、今年が2.8%、2010年には5.8%に上昇する見込みだが、なかでも中国・インドなど新興市場国は更に力強い回復を見せると予測される。

アヌープ・シン IMF アジア太平洋局長は10月4日、イスタンブールで開催されている [IMF・世界銀行年次総会](#)での記者会見で「アジア地域は第1四半期は困難な局面にあったものの、現在では多くの国で経済回復が進んでいるようだ」と述べた。IMFは10月1日に [世界経済見通し](#)を公表している。

アジアの回復

シン局長は、大規模な財政支出、金融緩和、更に金融市場の回復及び安定化に向けた施策など、政策当局が断固とした措置を迅速に実施したことがアジアの経済の回復を促していると言及した。

同局長は、先進・新興市場20カ国グループに言及しながら「アジアは、G20の平均を上回る大規模な刺激策を早急に実施した」と述べた。

アジア地域は景気後退期には貿易・金融分野双方を通して大きな打撃を受けた。輸出は地域全体で落ち込み、資本はアジアから流出、工業生産は急落した。

しかし、今年の前半に回復を始め、第2四半期のアジア地域全体の経済成長率は2.5%に達した。シン局長は、同地域の公的部門の需要は純輸出の減退の相殺して余

るほど力強く、これが今年と同地域の成長要因の半分以上を占めるとの予測を明らかにした。

回復基調を維持する

一方でシン局長は、刺激策の時期尚早な解消はアジア経済の回復を損なう可能性がある」と警告した。

「アジアの多くの国は財政規律の長い歴史があり、その結果、財政支援策を継続する大きな余地を有している」と同局長は述べた。

「また、アジア地域の中央銀行には、民間需要の持続的成長の明らかな兆しが確認できるまで金融緩和政策を継続する余地がある」

シン局長は、今後「アジアの成長の推進力はアジア自身でなければならず、政策当局は、公的部門主導の内需成長から民間部門主導の成長への移行を注意深く推し進めなければならない」とした上で、同地域の政策当局者に対し民間需要の下支えを重点課題とするよう求めた。

最大限に連携

シン局長はまた、IMFは同地域との連携を最大限に行っていることを強調した。IMFのサーベイランス（政策監視）は強化され、地域関連事項をこれまで以上に重視しており、また同地域を始めとする加盟国のニーズにより効果的に応えるため融資制度は改革されたことにも触れ、[SDR配分](#)並びにスリランカやモンゴルでのプログラムを実施し、多額の資金を供与していると説明した。

さらに、IMFの新興市場並びに途上国の投票権を拡大するという先般の[G20サミット](#)のコミットメントは、アジアにとってプラスとなるだろうと述べた。

「これにより、アジアはIMFにおいてその世界経済での規模に見合ったより大きな発言権を得ることになる」

またシン局長は、IMFアジア太平洋局による初の地域諮問グループの設立を明らかにした。アジア地域の著名な経済専門家からなるこの諮問委員会は、定期的に会合を持ちIMFに対し同地域でのサーベイランスの役割の強化につながる重要な事項について助言を行うことになっている。